

親子でGO

糸魚川市西谷内の猪股

さん一家は、水稲とナス、スイカ、メロン、オクラなどを栽培し、出荷している。今までは、公一さん(47)と父の治武さん(77)が中心となって作業をしてきたが、今年の春からは、県内の農業専門学校を卒業した息子の一楽さん(20)が加わり、親子三代での農業経営となった。

公一さんが就農したのは38歳の時。電気関係の会社に勤めていたが、県外への出張が多くなり、家族と一緒に過ごせる時間が減った。「家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

三代で米作りに奮闘

何でも話し合える関係を

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

一緒に過ごせる時間が増えた。家族とも

糸魚川市・猪股さん



右から猪股一楽さん、治武さん、治武さんの妻、清美さん、公一さん

若い世代の育成に力を注いでいきたい。農業はよく3K(きつい、汚い、危険)といわれるが、Kが格好いいのKになるように、地域のつながりを大切にしながら若い世代が農業のできる環境を整えたい」と話す。

また、自身の経営について「まずは息子との関係づくり。仕事も日常生活も一緒なので、ストレスをため込まず、何でも話し合えるようにしたい。また、農地をもう少し拡大し、自分たちで販売にも挑戦していきたい」と、抱負を話す。

(ひすい)